

## 要望演題

■ 2025年11月14日(金) 15:20～16:20 ■ 第9会場

## [R15] 要望演題 15 大腸癌の診断と治療

座長：江崎 幹宏(佐賀大学医学部内科学講座消化器内科), 小林 望(国立がん研究センター中央病院検診センター)

## [R15-7] 切除不能進行・再発大腸癌に対するHER2検査運用状況とPER+TRA療法導入実態に関する多施設調査

森 良太<sup>1</sup>, 工藤 敏啓<sup>2</sup>, 畑 泰司<sup>3</sup>, 中田 健<sup>4</sup>, 井上 彬<sup>5</sup>, 三宅 正和<sup>6</sup>, 原口 直紹<sup>7</sup>, 小西 健<sup>8</sup>, 真貝 竜史<sup>9</sup>, 吉岡 慎一<sup>10</sup>, 竹田 充伸<sup>11</sup>, 朴 正勝<sup>12</sup>, 池永 雅一<sup>13</sup>, 内藤 敦<sup>14</sup>, 荻野 崇之<sup>11</sup>, 三吉 範克<sup>11</sup>, 植村 守<sup>11</sup>, 村田 幸平<sup>3</sup>, 土岐 祐一郎<sup>11</sup>, 江口 英利<sup>11</sup> (1.大阪国際がんセンター消化器外科, 2.大阪国際がんセンター腫瘍内科, 3.関西労災病院消化器外科, 4.東大阪医療センター消化器外科, 5.大阪急性期・総合医療センター消化器外科, 6.りんくう総合医療センター消化器外科, 7.近畿大学奈良病院消化器外科, 8.川西市立総合医療センター消化器外科, 9.近畿中央病院消化器外科, 10.八尾市立病院消化器外科, 11.大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学, 12.大阪けいさつ病院消化器外科, 13.市立豊中病院消化器外科, 14.堺市立市立総合医療センター消化器外科)

## 【背景・目的】

HER2陽性大腸癌は2～3%と希少であり、RAS野生型でも抗EGFR抗体薬に対し治療抵抗性を示す事が多い。TRIUMPH、MyPathway試験の結果を受け、2022年にPER+TRA療法が保険収載され、HER2検査が推奨されるに至った。2023年には乳癌の臨床試験の結果を受け、本邦で大腸癌に対し世界に先駆けてPER+TRAの皮下注製剤が承認されたが、大腸癌における臨床試験や有効性の報告は存在しない。今回HER2検査の実施頻度、抗HER2療法の導入数を把握することを目的とした。

## 【方法】

大阪大学の関連25施設(大腸癌手術: 約4000例/年)を対象に、2022年～2024年におけるHER2検査の実施有無、実施時期、治療対象症例数、抗HER2療法の施行数についてアンケート調査を行った。

## 【結果】

96%の施設でHER2検査を施行、内54%がルーチンで検査を実施していた。実施時期は「切除不能・再発と診断された時点」が最多で次いで「二次治療以降」であった。治療対象症例は25例であり、内PER+TRA点滴製剤は6例、皮下注製剤は5例に留まった。皮下注製剤は73%の施設で採用されていたが実際使用しているのは1施設のみであった。

## 【結論】

HER2検査をルーチンで実施している施設は全体の約半数にとどまり、施設間での運用に差を認めた。今後はHER2検査の標準化と、治療選択に結びつける実臨床での活用体制の強化が求められる。